

円、買取価格48円から比較して補てん的な積算のもと、1kw3万円の補助とし、補助上限を12万円とし、5戸分を予算措置しました。

●町長に対して

家庭では夏はコンポストや土中へ埋めるなどの生ごみの処理の仕方はあるが、冬が困ります。簡単に段ボールで生ごみの堆肥ができる方法の普及に努めてはどうか。ピートモスや米糠を混ぜて処理する臭わないやり方です。ゴミ減量の町民交流もできればよいと考えますので伺います。

●町長答弁

段ボール箱に土壌改良材を入れて微生物により生ごみを発酵分解される事だと受け止めました。道内の自治体でも広報紙などでPRをしているところもあります。ランニングコストが安いという非常にメリットはあるようですが、段ボールの耐久性の問題、生ごみの攪拌などに手間がかかる、虫の発生、臭いなどのデメリットもあるようです。これらのことも十分考慮し、町として推奨できるのか十分に検討していきたい。ゴミの減量の町民交流についても検討していきたいと思えます。

浅野章雄 議員

●町長に対して

「比布米」のブランド化意識を関係機関と共有するとあります。上川農業試験場がある「ゆめぴりか」発祥の地としての、本町のメリットを米のPR・ブランド化に生かしていきたいのではないかと町長に伺います。

●町長答弁

現在の本町の米流通は、ホクレンを介しての流通になっております。この方法ですとなかなか発祥の地をアピールする事は難しい状況だと思っております。ただ今後この事を生かしていく為に、農業者や農協としっかりと協議していく必要があると思っております。



●町長に対して再質問

近年は直播やホールクロップに取り組む生産者も増加していますが、やはりメインは主食米であると考えます。発祥の地としてのキャッチコピーは比布だけのものだと思いますので、ホクレン・J.Aとも協議しブランド化をぜひ進めていただきたいと思えます。

●町長再答弁

発祥の地としてのメリットを生かさず手はないと自分も思っておりますので、いろいろクリアしなければならぬ点もありますが、しっかりと話をしてみたいと思えます。

●町長に対して

4月より2期目としてスタートする「農地・水保全管理対策」は事業費がすぐに交付されません。

町として、各組織に一定程度の事業費を町負担の中から、先に交付してはどうか町長の考えを伺います。

●町長答弁

町負担分は、一旦、道の協議会に納め、その上で道協議会において国・道負担分と併せて、各組織に交付される流れになっていきます。地域の実情も踏まえ、町分だけでも早急に組織に交付できないか、道協議会の方と協議を

させていただきますと思います。

●町長に対して

道営土地改良事業は9区、17区で計画されていますが、今後採択となれば、事業地域の隣接する町排水路の補修等の工事も併せて行つてはどうか伺います。

●町長答弁

この事業については、1年間の調査期間が必要となります。その中で換地・耕作道そして排水路についても対象となりますので、問題が生じれば検討してまいりたいと思えます。

澁谷興二 議員

●町長に対して

設置9年目を迎えた対策室の機構について、町の施策実施(補正予算)に対し、農協より要請があった等の発言がありました。対策室としての機能と室長と農林課長の連携についても伺いた

また、農業振興に関する機能や情報を一元化し一体的な運営を再構築する考えはあるのか。

農協Aコープ店舗跡の利用について、町と農協との一枚岩が大事ですが考えはどうか。

●町長答弁

農業対策室の現状の体制では不十分なものがあるという思いを持っていきます。室長の件についても農協に持って欲しいとの考えで進めて来ましたが、連携が十分取れていません。課題が残った事も事実です。

新たな体制の構築に向けて、関係機関と協議を進めていかな

なくてはいけないと思っております。その体制となれば農業委員会等も参加していただけるような体制にしていきたいので、改めて農協に職員の派遣体制を見直していただきたいと思っております。

Aコープ店舗跡の利用については、対策室のあり方を協議するなかで進めていきたいです。

●町長に対して

町政施行50周年の節目の今年に、タイトルを含め若い人にも町政50年を知らせて欲しい。記念イベントや意義などを知らせる考えはあるか。

●町長答弁

式典とか特別なイベントの計画は持っていません。既存イベントの特に人が集まる七夕天国等で、町施行50周年を迎えたと町民の皆さんに知らせる形を進めたいと思えます。広報紙でも知らせていきます。

●教育長に対して

フッ化物洗口のメリット・デメリットがあるとされている中、実施する経過と保護者への説明・同意と歯科医院と実施する現場の対応はできているのか。講習会を受けてすぐ安全にできるものなのか。また、比布町だけがしているのか。



●教育長答弁

平成22年から、既にくるみ保育園で、フッ化物洗口を実施しています。

乳歯から永久歯に生え替わる時期に、長く継続して実施をすることが効果を発揮します。小学校入学後も、引き続き取り組

んでいただきたいと、そういった思いから進めています。まず3学期から1年生、平成24年度は2年生以下、25年度は3年生以下と学年を増やし最終的には全学年に実施したい。

保護者の皆様から洗口の実施についての承諾をいただき、それを基にこの2月9日から1年生のフッ化物洗口を実施していきます。

薬剤の取り扱いの関係ですが、薬剤の保管と分包は学校歯科医にお願いしています。また薬剤の溶解と、専用容器の洗浄については教育委員会で実施しています。

「フッ化物」につきましては、国や都道府県をはじめ、世界保健機構においても、虫歯予防に効果的で、安全な方法と認めているものです。

また、そのフッ素濃度については、市販の「歯磨き粉」に含まれているものより低く、例え誤飲しても健康被害の危険性は低いということです。

既に、学校等で広く普及され、他都府県においても今まで健康被害の報告はされていません。

平成24年度から旭川市は小学校全児童に、愛別町は小中学校全児童・生徒に実施する予定です。

佐藤康則 議員

●町長に対して

びつぶスキー場の雪不足解消対策も検討しておられるそうですが、具体的な解消対策法とは何かあるのか伺います。

●町長答弁

人工降雪機の導入が出来ないか調査中ですが、費用対効果の面から考えると大変難しい状況で、今後さらに調査を進めていきます。

●町長に対して

万が一の災害発生時において防災マニュアルを基に、起こりうる災害を想定し指揮系統、情報の伝達確認等の訓練を定期的に行う必要はないか、デジタル防災無線放送の開局に併せて、マニュアルを再整備し、訓練を行つてはどうか。

●町長答弁

平成23年度より「比布町地域防災計画」の更新を開始し、策定業務を委託しています。

新計画完成後「災害対策本部」、「情報の伝達系統」を精査し、訓練等に至るまで検討して行きます。

●町長に対して

公営住宅の長寿命化計画に基